

皮 膚 科

【実習目標】

一般目標：

皮膚科診療の実際を通して、医学、医療全体における皮膚科学の役割を知り、皮膚科のイメージを獲得する。また、将来の専門領域に関わらず必要となる皮膚科領域の知識や技能について理解を深める。

到達目標：

1. 良好な人間関係のもとで患者、医師、およびその他の医療従事者とのコミュニケーションをとることができる。
2. 患者の立場に配慮しつつ、皮膚病変の所見を正しく観察し、記載することができる。
3. 皮膚症状から疑うべき内臓病変、および全身疾患の部分症状としての皮膚症状について説明できる。
4. 皮膚病変に関連して必要な身体所見をとることができる。
5. 患者に関する個々の情報を適切に収集、整理、関連付けをして問題点を抽出することができる。
6. 皮膚病変から皮膚悪性腫瘍およびその鑑別疾患を適切に想起することができる。
7. 皮膚を用いたアレルギー検査について理解し、行うことができる。
8. 基本的な創傷処置および軟膏処置を見学し、その意義を説明することができる。
9. 手術の目的や基本的手技について理解し、説明することができる。

【実習内容】

1. 実習期間中、各人1名の入院患者を受け持つ。
2. 受け持ち患者の病態や疾患について学習し、病歴聴取や、簡単な診察を行い、その患者特有の問題点を抽出する。また、検査、治療の実際を見学、介助、または指導医の指導・監視の下に実施をする。
3. 初診から現在までの経過における臨床症状、検査データ、問題点について整理し、現時点における課題と今後の治療計画について指導医とディスカッションする。
4. 指導医の指導のもと、相互の生体を用いてアレルギー検査等の実習をする。
5. 外来患者に対する診察・検査・処置・小手術の見学または介助を行う。
6. 皮膚悪性腫瘍の病理組織を観察し、各疾患の病理像の特徴を学習する。
7. 手術室において実際に手術を見学し、その適応や手技について理解を深める。
8. 実習終了時に受け持ち患者のサマリーを提出、発表し、情報の統合と問題解決能力、プレゼンテーション能力のトレーニングを行う。

【日程表】

9:00 9:30		12:00 13:00 13:30 14:00		15:00 15:30		16:30 17:30		
月	外来実習			オリエンテーション・ 入院症例説明 (医局セミナー室)	皮膚病理実習 (医局セミナー室)	症例カンファレンス ※1 (医局セミナー室)		
火	入院カンファレンス・ 教授回診 (医局セミナー室)	昼 休 み	手術見学		病棟実習			
水	外来実習		手術見学		病棟実習			
木	外来実習		アレルギー検査実習 (外来)	病棟実習				
金	病棟実習		病棟実習	レポート発表・総括※2 (医局セミナー室)				

※1 月曜が祝日の場合、原則として火曜 17:30～医局セミナー室で症例カンファレンスをおこなう。

※2 金曜が祝日の場合、原則として木曜 15:00～レポート発表・総括をおこなう。

I. 患者と接する内容

- ① 外来患者予診（適切な症例がある場合）
- ② 入院患者問診、皮膚所見の観察
- ③ 簡単な器具（聴診器、血圧計、ダーマスコープなど）を用いる診察
- ④ 処置（外用療法、創傷処置など）
- ⑤ 手術見学
- ⑥ その他

II. 学生相互を対象とする内容

- ① 採血
- ② 皮膚アレルギー検査
- ③ その他

III. 生体と直接は接しない内容

- ① 病理組織標本観察
- ② 検査（真菌検鏡、検尿、検便など）

IV. その他

- 注) 1. 外来実習では皮膚科第1診察室の見学、処置見学および介助などを行う。
2. 学生1人につき病棟患者1名を割り当て、主治医の指導のもと、実習期間中にその症例のケースレポートをまとめて発表する。

【注意事項】

1. 集合場所：月曜日 9:00 皮膚科外来（月曜日が祝日の場合は火曜日 9:30 皮膚科医局セミナー室）
2. 患者さんには丁寧な言葉、態度で接すること。
3. 服装などは、患者さんに不快感を与えないように心がけ、白衣を着用し、ネームプレートをつけること。ヒールや、底が硬く歩くと音がする靴は不可。サンダルも不可。長髪は束ねる。また髪留めは髪と同系色のシンプルな物を使用し、リボンや大きな物、華美な物は避ける。
4. 火曜日午前の病棟回診後のカンファレンスでは、患者さんの病態等について疑問に思ったことを教員に質問する機会を設ける。常に問題意識をもって参加すること。
5. やむを得ず欠席、遅刻、早退する場合はその旨申し出ること。正当な理由のない欠席や遅刻、早退は評価の際に減点の対象となる。
6. 実習中に居眠り、私語、その他、医学生として不適切な行動がみられた場合、評価の際に減点の対象となる。
7. 外来実習の準備として、特に下記の疾患について、病態、診断、治療などについてよく理解しておくこと。自分の知識が不十分だと感じる場合は、教科書や講義の際に使用したプリントを持参してもよい。国家試験対策用のテキストでは不十分である。

【外来実習に備え、特によく理解しておくべき疾患】

アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎、尋常性乾癬、尋常性天疱瘡、類天疱瘡、悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌、菌状息肉症、糖尿病性壊疽、蜂窩織炎、白癬、帯状疱疹、熱傷

【参考図書など】

- 新しい皮膚科学 (中山書店)
- 標準皮膚科学 (医学書院)
- マイナー皮膚科学 (金芳堂)
- 皮膚病アトラス (文光堂)
- 講義で使用した授業プリント

【評価方法】

外来実習、手術見学、病理実習、アレルギー検査実習、総括についてはそれぞれの担当教員が毎日、積極性、態度、知識を評価する。欠席した場合、休んだ日の評価点は0点となる。実習期間中の評価点の小計を70点満点、レポート内容を30点満点とし、これらを合計して100点満点で評価する。正当な理由のない欠席は1日につき10点、遅刻・早退は1回につき5点を合計点から減点する。最終的な合計点60点以上を合格とする。

【担当教員】

教授	秀 道広	(広島大学大学院医歯薬保健学研究科 皮膚科学)
准教授	田中 暁生	(広島大学大学院医歯薬保健学研究科 皮膚科学)
講師	河合 幹雄	(広島大学病院 皮膚・運動器診療科)
助教	高萩 俊輔	(広島大学大学院医歯薬保健学研究科 皮膚科学)
助教	岩本 和真	(広島大学病院 皮膚・運動器診療科)
助教	菅 崇暢	(広島大学病院 皮膚・運動器診療科)
助教	森桶 聡	(広島大学病院 皮膚・運動器診療科)
助教	壺井 聡史	(広島大学病院 皮膚・運動器診療科)
助教	柳瀬 雄輝	(広島大学大学院医歯薬保健学研究科 皮膚科学)

【連絡先】

皮膚科 教務担当 森桶 聡

電話: 082-257-5238 皮膚科医局 (平日 8:30~17:00)

e-mail: morioke-hma@hiroshima-u.ac.jp

電話での連絡を原則としてください。

電話が繋がらないなどやむを得ない場合は電子メールでの連絡も可能です。ただし、電子メールでは急ぎの連絡には対応できません。